

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 10 月 25 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	木下勇貴

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、新潟県妙高市笹ヶ峰、長野県山ノ内町地獄谷
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰野外実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 9 月 26 日 ~ 平成 30 年 9 月 29 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
静岡大学 杉山茂 PWS 特任准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
新潟県笹ヶ峰地域における野外フィールドワーク実習に参加した。
日程 9/26 移動(犬山→笹ヶ峰)、散策 9/27 ヒュッテ周辺散策、ドローン実習 9/28 火打山登山、ヒバーク実習 9/29 スキー実習、地獄谷見学、移動(長野→犬山)
初日はヒュッテ周辺の散策を行った。杉山先生から笹ヶ峰の動植物について話を伺った。2日目の午前中はもともと涸沢踏査をする予定だったが、前日の雨の影響を考慮してヒュッテ周辺の散策へ予定を変更した。途中、ニホンザルの群れに遭遇した。群れに遭遇することは滅多にないらしく、我々は幸運であった。午後はドローン実習を行った。夜には翌日の登山の地図読みを教えていただいた。
3日目は火打山登山を敢行した。朝4時起床。辺りが薄暗い時間帯にヒュッテを出発した。標高が高くなるにつれて植生が変化していく様子が観察できた。しかし、ロッジに到着したところで周囲が霧に包まれ、小雨がぱらつき、視界がますます悪くなっていった。頂上まで行くのは危険だと先生方が判断し、登山を打ち切って下山する運びとなった。頂上の手前にある天狗池の眺望を楽しみにしていただけに残念であったが、安全性を第一に考えるということの重要性を学んだ。予定よりも早い時間にヒュッテに戻ってきたため、午後はヒバーク実習を行った。ツェルトの使い方について杉山先生からレクチャーしていただいた。
最終日の午前中は室内でスキー実習を行った。その後、マイクロバスで長野県山ノ内町の地獄谷まで移動し、野猿公苑のニホンザルを観察した。個人的に訪れたことが一回あったが、雪の積もっていない時期に来るのは初めてであった。気温が下がりきっていないためか、温泉に入るサルは数頭しかいなかった。観光客もまばらであった。温泉を横から囲むようにして崖が切り立っている。温泉に入るサルを観察しているときにふと後ろを振り返ると、約10メートルの高さの岩陰にサルが座ってこちらを見ていた。
今回の実習ではフィールドワークの基礎を体験した。私自身は普段、実験室内での研究が中心のため、野外での知識や経験を得られたことは大変貴重であった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



サルナシ



地獄谷野猿公苑



温泉を飲む



ドローン実習

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



一日目の夕食（パエリア）



山は秋

6. その他（特記事項など）

本実習は PWS リーディング大学院プログラムのご支援のもと行われました。また、今回の実習においてご指導いただいた松沢哲郎先生、杉山茂先生、森村成樹先生、福島誠子先生に感謝申し上げます。